

施策評価シート(平成24年度評価実施)	担当部課名	農林水産課	関連部課名	農林水産課
基本目標	賑わいと元気あふれるまちづくり【産業】			
施策名	農林業			
安全・安心な食生活に資する農業の振興を図るために、付加価値の高い品種の栽培、地産地消の促進、新たな担い手の育成、ほ場整備や農地の集積などによる効率的な営農環境の整備などを進めるとともに、林業については、森林資源の保全、鳥獣被害の対策などの取組を推進します。				
施策が目指す蒲郡市の将来の姿				
<ul style="list-style-type: none"> ●安心できる農作物を供給し、魅力ある農業が行われています。 ●農地を「所有」から「利用」へ転換することを促進し、農業が身近になっています。 				

◆具体化した施策の取り組み実績

1 親しみやすく魅力ある農業の実現

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
第六次産業支援補助金	—	—	1件 300千円
市民農園設置数、区画数及び利用率	3園 34区画 97%	3園 34区画 97%	3園 34区画 97%
子ども農業教室開催(参加者数)	12校 小学3年生728人	13校 小学3年生706人	JA蒲郡市が実施予定

2 遊休農地・耕作放棄地の解消と担い手の育成

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
農地の利用権設定状況	12.8ha	12.7ha	6.0ha
新規就農者奨励金(対象者・支給額)	4人 500千円	3人 280千円	4人 500千円

3 効率的な営農を支える基盤整備

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
ほ場整備事業進捗率(大塚千尾地区)	事業認可準備	15.2%	48.4%
農業環境整備率(施工実施箇所数/地元要望箇所数×100)	100%	100%	100%
食用ギク栽培LED利用実証試験	200千円	200千円	200千円

4 森林等自然資源の保全

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
林道環境整備率(環境整備実施面積/環境整備対策面積(72,000㎡)×100)	44.4%	44.4%	44.4%
有害鳥獣駆除数	イノシシ99頭 アライグマ16頭 ハクビシン4頭	イノシシ89頭 アライグマ14頭 ハクビシン8頭 ヌートリア2頭	イノシシ100頭 アライグマ20頭 ハクビシン10頭

◆評価指標

指標名	区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	将来目標
耕作放棄地面積比率	目標値				
	実績値	3.5%	3.5%		平成32年度
担い手への農地の利用集積率	目標値		10.0%	10.0%	
	実績値	7.0%	7.7%		平成32年度

◆指標の説明・考え方

指標名	説明・考え方
耕作放棄地面積比率	当年度耕作放棄地面積／当年度耕地面積×100
担い手への農地の利用集積率	当年度までの集積面積／管内の農地面積×100

◆指標の分析

耕作放棄地を減らすことにつながる農地の利用集積であるが、平成23年度は前年に比較して0.7%の増になっているものの、耕作放棄地は減っていない。これは、耕作放棄地になる前の農地が優先的に利用権設定されて担い手に農地が集積されている現状がある。新たに利用権設定される農地の範囲を利用しやすい現行農地から耕作放棄地まで広げられるようにならないと耕作放棄地面積は減らない。農地転用による農地の減少が今後も続くことから、耕作放棄地の減少率が農地転用以上にならないと耕作放棄地面積比率は増加することになる。

◆今後の方針

蒲郡は、みかん等果樹を中心とした農業生産が行われ、花き、つまもの、イチゴ等の施設園芸も盛んに行われていますが、近年の原油価格の高騰により、ハウス栽培は大きな打撃を受けており、温室みかんの生産量が減少している状況にある。農業経営の悪化に伴い、作物の転換を図る取り組みもされているが、将来性も考え後継者の育成を断念し、離農するケースも今後ますます増えて耕作放棄地の増大につながる懸念がある。水田については蒲郡は市全体でも栽培面積が少なく、自家消費米の生産が中心となっており、農業経営としては成り立たない状況が前からあり、耕作放棄地化する可能性が高い。

国は高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などの「人と農地の問題」があり、5年後、10年後の展望が描けない地域が増えているとして、人・農地プラン作成、新規就農者、農地集積などを支援しており、蒲郡市においても新規就農者へ就農時のリスク軽減のための給付金の交付を行い、また、地域の中心となる経営体への農地の集積は、経営規模縮小や離農する者からの利用権設定により農地の提供をしていただき、遊休農地化や耕作放棄地の減少を図る。

課長評価	構成事業の進捗状況	B: おおむね計画どおり進行している。
	施策の進め方	A: 現状のままでよい。
	コメント	農業経営者の高齢化や後継者不足が耕作放棄地増加の要因ではあるが、農産物価格の低迷等外部要因も大きい。経営規模拡大や収量増加で経営安定を図る農家に対する支援をしていく必要がある。

部長評価	施策の進捗状況	B: 目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり順調に進行している。
	コメント	高齢化、後継者不足、原油高騰などにより、農業経営は苦しい。また、就農支援や耕作放棄地対策も法規制や国の支援制度が確立しておらず、抜本的な解決に至っていない。市場競争力を高めるためにも農協との連携を強化し、利用集積を図る必要がある。また、意欲と能力のある担い手の育成・確保に積極的に取り組んでいく必要がある。

施策に属する事務事業一覧

総合計画	所管課	番号	事業名	人件費を除く 事業費(千円)	人件費 (千円)	人工	総合 評価	事業の 種別	市長 マニフェスト	実施 計画
2-1	農林水産課	264	農業委員会事業	6,261	7,412	1.04	B	7	—	×
2-1	農林水産課	265	農地転用等事業	0	6,312	1.01	A	7	—	×
2-1	農林水産課	266	農地・農家情報管理事業	4,246	7,128	1.01	B	イ	—	×
2-1	農林水産課	267	農業資金貸付制度事業	297	950	0.11	A	オ	3	×
2-1	農林水産課	268	農業経営基盤強化資金利子補給事業	8	950	0.11	A	オ	3	×
2-1	農林水産課	269	農地流動化・利用集積等地域農政推進事業	0	1,331	0.16	B	オ	3	○
2-1	農林水産課	270	高産振興事業	47	1,044	0.18	A	オ	3	×
2-1	農林水産課	271	米政策対策事業	214	2,092	0.26	A	オ	3	×
2-1	農林水産課	272	市民農園管理運営事業	177	2,092	0.26	A	カ	3	×
2-1	農林水産課	273	農林水産まつり実施事業	2,800	3,420	0.54	B	カ	3	×
2-1	農林水産課	274	相楽町生活環境施設改善事業	0	1,045	0.12	B	オ	3	×
2-1	農林水産課	275	農業振興事業	6,637	5,990	0.94	A	オ	3	×
2-1	農林水産課	276	地域農業振興事業	4,332	854	0.09	A	オ	3	×
2-1	農林水産課	277	食農教育実践事業	1,000	1,044	0.18	A	カ	3	○
2-1	農林水産課	278	有害鳥獣駆除事業	4,948	2,183	0.44	A	カ	4	○
2-1	農林水産課	279	農道新設改良事業	1,888	1,554	0.21	A	ウ	4	○
2-1	農林水産課	280	水路改修事業	9,201	3,270	0.41	A	ウ	4	○
2-1	農林水産課	281	ため池改修事業	6,668	2,380	0.31	A	ウ	4	○
2-1	農林水産課	282	ほ場整備事業(大塚千尾地区)	7,793	9,224	1.19	B	エ	4	○
2-1	農林水産課	283	土地改良施設維持補修事業	36,633	3,489	0.47	A	ウ	4	×
2-1	農林水産課	284	農地・水・環境保全向上対策事業	632	4,947	0.63	B	オ	4	×
2-1	農林水産課	285	土地改良区事務事業	31,117	8,407	1.29	B	オ	3	×
2-1	農林水産課	286	林道維持整備事業	5,715	3,615	0.46	A	ウ	4	×
2-1	農林水産課	287	松くい虫防除事業	1,700	2,380	0.31	A	カ	4	×